

令和6年度事業報告
社会福祉法人 檀原ふれあいの里福祉会

〈令和6年度 年間行事報告〉

- 4月 入所式・辞令式
利用者健康診断
職員研修（虐待防止・身体拘束防止）
- 5月 さをり織りファッションショー/楽器演奏/ダンス発表会
（於：桜井市立図書館）
個別支援計画作成
- 6月 理事会・評議員会開催
防災研修（神戸防災センター見学・研修）
- 7月 避難訓練
防災研修
個人面談
- 8月 十市町盆踊り大会参加
「成年後継人制度」についての勉強会
養護学校より実習生受入
福祉就労説明会参加
- 9月 特定技能実習生受入（ミャンマーより3名）
グループホーム一泊旅行（須磨水族館/淡路島）
全国グループホーム近畿地区大会参加
- 10月 十市町秋祭り参加
日帰りバス旅行（海遊館）
- 11月 職員健康診断
インフルエンザ予防接種
- 12月 クリスマス会/ハンドベルの演奏
仕事納め
- 1月 十市神社へ初詣
虐待防止研修（大和高田市産業会館）
近畿地区知的障害者関係施設長会議参加
インフルエンザ・コロナウイルスまん延
- 2月 避難訓練
虐待防止研修（大和高田市産業会館）
- 3月 理事会
職員全体ミーティング（次年度の計画）

〈その他の取り組み〉

音楽療法	月2回
ダンスレッスン	月3回
さをり織り	週3回

〈訓練事業〉

プラスチック製品の組立加工
外部施設での清掃作業
手作り作品の販売

〈令和6年度を振り返って〉

令和6年度における大きな出来事といえば、ミャンマーから3人の特別技能実習生を迎え入れたことです。9月に来日して、早いもので9か月が経ちました。来た時から生活に必要な日本語は話していましたが、今では、びっくりするほど日本語が上達しました。3人共、明るくて真面目で、利用者さんとも、すぐに打ち解け友達になりました。来日当初は、不安にならないように配属部署も一緒のところまで仕事ができるように配慮しましたが、今では、一人ひとりの個性も発揮して、グループホームの泊り勤務も先輩職員と一緒にこなせるようになりました。そして毎日の記録も少しずつ日本語で書けるようになってきました。

外国からの実習生を迎え入れることで、職員も変わってきました。今まで無意識に話していた日常会話に緊張感が漂ってきました。正しい日本語を使うこと、わかりやすい言葉を使うこと、ゆっくり話すことなど、よくよく考えれば、今までの仕事における基本の何ものでもなかったことですが、私達は、障がいを持った仲間との日常の会話に、優しさが足りず、思いやりを忘れかけそうになっていたことを自覚しました。言葉の壁を抱えた職員を迎えたことで原点に立ち返り、言葉の重みと大切さを再認識しました。

2番目に大きかった出来事は、5月18日に開催した「さをり織りのファッションショー・楽器の演奏・ダンスの発表会」でした。最初は、ぎこちなく右足と左足が絡まってしまいそうなりズムに合わせて毎週、毎週、ダンスの練習を重ねたこと。自分の織った布で仕立てた服を着てランウェイを歩く。何度も何度も練習を繰り返した。テープを貼って作ったランウェイを繰り返し繰り返し歩く。理解ができていない人。なかなか理解ができない人。練習に打ち込んだその姿は一本の映像となり、「山形国際ドキュメンタリー映画祭」に参加できることになりました。上手な人、不器用な人、それぞれが競い合うのではなく、ひたむきに取り組んだ結果、輝いた笑顔はダイヤモンドでした。

言葉が出にくい、気持ちを伝えにくい障がいのある人、高齢の人が「自分らしく生きる」ことは至難の業ですが、笑顔の数を忘れず、本人の意思決定支援に寄り添える施設を作って行きたいと思います。

そして、最後に令和6年度は、施設内における利用者の人権に関わる虐待事件及び身体拘束事例はありませんでした。次年度も施設内外での研修の機会に参加して、職員の学ぶ機会を増やしていきます。